

平成30年10月定例会会議録

(平成30年10月16日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 10月定例会会議録

- 【開催日】 平成30年10月16日（火）
- 【場所】 八代市千丁支所2階 庁議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
富田 壽人 教育委員
小嶋 ひろみ 教育委員
松永 松喜 教育委員
水田 千春 教育委員
- 【出席職員】 桑田 謙治 教育部長
和久田 敬史 教育部次長
機 智三郎 教育政策課長
西村 裕 学校教育課長
有馬 健一 教育部首席審議員兼教育施設課長
小山 弘行 生涯学習課長課長補佐
沖村 巧 教育サポートセンター所長
山崎 撰 博物館未来の森ミュージアム上席学芸員
坂部 功泰 教育政策課主査
- 【事務局】 岩崎 伸一 教育政策課課長補佐兼教育政策係長
西村 妙子 教育政策課主任
- 【審議事項】 <議案案件>
①八市教委議第26号 平成30年度教育に関する事務執行状況の点検・評価報告書について
- <報告案件>
①報告第23号 平成29年度決算審査（文教福祉委員会）における質疑・要望等の概要について
1. 開会 (午前10時10分開会)
2. 教育長報告
北岡教育長 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告
3. 議題
<八市教委議第26号 平成30年度教育に関する事務執行状況の点検・評価報告書について>
機教育政策課長 8月定例会後に2回開催した外部評価委員会において、外部

評価委員からいただいた10事業に関する意見について説明する。

○通学関係事業について

安全の確保は必須であり、効率的な運営を模索する必要がある。電車通学をする子どもが電車の事故による遅延等があった際に保護者や学校と連絡をとる方法についての課題を提起。

○アレルギー対応食提供事業

現場からの要望、意見を調べてみる必要があるのではないかと。

○いじめ対策等推進事業

ICTを活用した情報収集により、対策の更なる充実が必要である、親と子どもの接する時間が減少し、子どもがスマホ等に時間を費やすようになってきたことがいじめや不登校に影響していると思う。

○特別支援教育推進事業

悩み相談窓口に関するお知らせを定期的に配布してもらいたい。

○不登校児童生徒の適応指導事業

人材の育成・確保が急務である。

○小学校非構造部材耐震改修事業

避難所になった場合に空調又は網戸の設置等が課題である。

○泉第八小学校空調設備改修事業

達成度が100%で評価できる。

○生涯学習推進事業

参加者を掘り起こすため、情報を広く行き渡らせる必要がある。

○公民館施設整備事業

不具合のある空調への対応をお願いしたい。

○博物館特別展覧会事業（春季）

こどもたちが重要な文化財に理解を深める機会の創出に努めてもらいたい、文化交流の拠点として更なる充実を望む。

そのほか、8月定例会において出された意見により修正等を行った部分について説明。点検評価報告書については、12月市議会に議員に配付し、市のホームページにも公開する。

（質問等なし）

【議案第26号 承認】

〈報告第23号 平成29年度決算審査（文教福祉委員会）に

和久田教育部
次長

おける質疑・要望等の概要について)
決算審査委員会総括書により4人の委員からの質問等について報告

○奨学資金貸付事業について

申請件数の減少に対する今後の方向性についての質問に対し、保証人の見直しにより今年度は2人に貸付を行った。今後は借りやすく、返しやすい制度を検討していきたいと回答した。

○通学関係事業について

スクールバスの買い替え予定についての質問に対し、まず支援学校、次に八竜小を買い替える予定であると回答した。

○八代市学校給食会運営補助金事業について

施設の再編整備についての質問に対し、第三者委員会によるあり方検討会の提言に基づく再編計画を検討中であると回答した。

○博物館特別展覧会（春季）について

展覧会の開催、施設・設備の更新等についての質問に対し、博物館は国指定重要文化財の公開承認施設として文化庁の認定を受けており、今後も当該認定を更新していくため、認定要件である施設・設備の適正な管理と専門職員の計画的な配置に努めると回答した。

○小中一貫・連携推進事業について

導入後の学力向上についての質問に対し、小学生は、全国平均を上回っているが、中学生は、全国標準学力検査においては全国平均並み、全国学力・学習状況調査においては、全国平均を下回っていると回答した。

○小中学校ICT支援員事業について

ICT支援員の支援体制はどうなっているかという質問に対し、ICTサポートセンターに業務委託し、月数回の支援を行っているという回答した。

○語学指導外国青年招致事業について

各学校におけるALTの活用についての質問に対し、チームティーチングで活用したり、中学校においてはスピーキングのテストに活用したりしていると回答した。

決算審査委員会総括書により2人の委員からの意見・要望の主なものについて報告

○パソコン教育推進事業、小中学校ICT支援員事業について

ハード面、ソフト面の両面に集中して投資して欲しい、また人材育成もして欲しい。

- 不登校児童生徒の適応指導教室について
施設設備の改善の検討をお願いしたい。
- 博物館特別展覧会（春季）について
すばらしい展覧会を今後ともお願いしたい。

- 北岡教育長 以上の説明について、質問・ご意見等がありますか。
- 小嶋教育委員 くま川教室は、通級希望者が増えてくると思うが、今後の方針を教えて欲しい。
- 桑田教育部長 施設の老朽化、通級希望者の増加、小学生の受け入れという課題があると認識している。公共施設は、ファシリティマネジメントの観点から個別に計画していくことになっているため、そこも含めて、移転又は改築で今後も検討していきたいと考えているが、なかなか改築は難しいと思うため、代替施設についても検討していきたい。
- 小嶋教育委員 その場合、小学校の子どもも受け入れられるようにしようと考えているか。
- 桑田教育部長 それも含めたところでの施設を探していきたいと考えている。
- 富田教育委員 現状においては、教科内容が違い、中学生と一緒ににはできないため、小学生の対応は大変であると思う。スポーツ関係はいいと思うが、学習関係は、現状では進路が出てきているため難しいと思う。
- 小嶋教育委員 そうなると、小学部、中学部と分けることになる。
- 水田教育委員 最近、氷川町で学校に行けない子どもが図書館の部屋を借りて学習会をしていると聞いた。氷川中の校長先生がされていると聞いたが、八代でもそのようなことができたらいと思う。
- 北岡教育長 以前、関東の方へ出張に行ったときに、教育委員会の中に適応指導教室として一部屋用意されているだけで、子どもたちが来れば対応するという形でされているところがあった。くま川教室のように別の施設にあって、教科の先生を配置している所は、あまりないと思う。場所については、今は裏に入って目立たないところがあるので最適だと考えている。今後は、建替え

も含めて検討するとのことだが、建替える場合はその間をどうするのかという新たな問題も出てくる。市の使っていない施設の利用も検討していかないといけないが、不登校の状況で通ってくる子どもにとって、人に見られたくないということもあるかもしれないので、その辺を勘案し、また、公共交通機関を利用できる便利な場所でとなると場所が限られてくるが、広い観点から場所について考えなければならない。

富田教育委員　子どもたちが来たら対応するというのは、無責任であると思う。適当に行くというのでは、対応できないし、カリキュラムを組んで行わないと効果は何も生まれないと思う。

沖村教育サポートセンター所長　子どもたちへの意欲付けを8人の指導員が寄り添って行っているため、学校復帰の人数も増えている。現在、学校へ復帰したときのために、教科指導を行っているが、小学生は小学校の教科指導をする必要があるため、中学生と同じカリキュラムでは難しい。人数の問題ではなく、教育課程が変わるので、8人の指導員では小学生の受け入れは、無理である。小学生を受け入れて、責任を持ってやるためには、施設だけでなく人的なものも考える必要がある。

北岡教育長　8人の先生はいっぱい、いっぱいの状況で頑張ってもらっている。

小嶋教育委員　小学校の不登校の子どもは、小学校で解決しないといけないのか。適応指導教室が必要なのか。

沖村教育サポートセンター所長　指導員が通級希望者へ面談を行うが、原因や問題は様々で、絡み合っているため、小学校で解決するというよりいろいろな関係機関が連携しながらみんなで解決していかないと無理である。

小嶋教育委員　適応指導教室というものが小学校にも必要であるか。

沖村教育サポートセンター所長　小学校の頃の課題を引きずって中学校に上がってきている子どもが多いので、不登校の状態になってしまっていて適応指導教室に来るよりは、施設や人的な整備ができるなら、早い方がいいので小学校から必要ではないかと思う。

北岡教育長　人的、予算の確保が大きい。

小嶋教育委員 小学生にも適応指導教室を作った方がいいのか、学校と福祉が連携して解決できるような道があるような気がする。

北岡教育長 学校だけで解決するというのは、とても無理な状況である。不登校が学校だけに起因しているなら、取り除けばできるかもしれないが、学校以外に起因して、複雑に絡み合っている場合は、福祉部門、専門家、地域などみんなで解決する努力を続けていかないといけない。いろいろと対策をしたが、どうしても難しいという状況になったら、適応指導教室という方法もあるという形がいいと思う。

小嶋教育委員 福祉関係の会議に出るが、今のような問題を福祉の方と話し合うときに、先生たちが多忙であるため、学校教育現場と福祉の連携が難しいと聞く。お互い連携しようとしているが、うまくいっていないと両方から聞くため、みんなが机をあわせて、問題のある子どもや家族のことを話し合える場ができるといいと思う。

北岡教育長 お互いが多忙になる。福祉の分野の要保護児童の問題、そこに絡んでくる家庭内のいろいろな問題、保護者の困っている問題があって、そういうケースは会議を開けば解決するものではなく、ずっと続いていくため、減らずに増えていく一方である。その分福祉の分野も多忙だと思う。ただ、それでは解決しないので、ケース会議で子どもにとって何が最善かを学校だけでなく広く専門機関、団体と連携をして模索していくことが大事である。

富田教育委員 親がどれだけ真剣に思っているか、親の努力で子どもは変わり、立ち直っていく。

小嶋教育委員 家族支援になってしまうと学校だけの範疇ではなくなり、色々なところが必要になる。親が変わると、子どもが変わったというケースをたくさん見ているのでそういう風につながっていけるとよいと感じる。

富田教育委員 小学校の不登校も多い現状で、くま川教室は小中学生を受け入れるとなっているが、小学生は、体育や行事に参加することなどから一緒にやっていくのがいいと思う。スポーツに参加して体を作って、徐々に変えていくというのがよい。

小嶋教育委員　くま川教室を利用した保護者の方から、先生方に親子共に一生懸命向き合ってもらったという話を聞いたことがある。先生方に支えていただいてありがたいことだと思う。

北岡教育長　くま川教室については今後検討を重ねていく必要がある。

桑田教育部長　くま川教室について、参考になる意見をたくさんいただいた。市長部局との連携などの話があったが、そういうことが総合教育会議の議題になるので、ぜひ、委員の方からも協議したいなどの議題があるとお知らせいただくと市長部局との調整ができる。

5. 連絡事項
- | | |
|------------|---|
| 教育政策課 | 氷川中組合議会定例会、議員行政視察について |
| 学校教育課 | 県の議長会における要望について、八代小 ICT 公開授業について、学校訪問について |
| 教育施設課 | 台風 24 号被害について |
| 生涯学習課 | 県下 14 市社会教育生涯学習担当課長会議について、部落解放熊本県研究集会について |
| 教育サポートセンター | 科学発明展について、くま川教室の行事について、文教福祉委員会管内施設視察について、 |
| 博物館 | 秋季特別展覧会について |
| 事務局 | 11 月定例会日程確認 (11/12 10:00~)
総合教育会議日程確認 (11/22 10:00~) |

6. 会議録署名委員の指名　富田委員・水田委員

7. 閉会　(午前 11 時 30 分 閉会)

平成 年 月 日

署名委員

記録者
